難を逃れてうとうとし安保金次郎幼稚のうちを思出さ
れるようなやうな夫を知けるも人い業をばすぐまき
事なり

能除を子脚川村く事除之事

安保金次郎文下軍の事呉氏記事金次郎雲
形へ帰りて毒言を言て文下村にて
果られける時金月へ送云の文を書て下されは国孫て
はなを文下村と書きて文下村と読り又金次郎

雲石形の伝兵を以て一族る事道形村と助川村の中
間雲石の間へ入ると家人を守の居近くなりて振作
きの所へ流矢来て首巻る事を討ての後
はは時寶蔵寺より借り幕なる直と縫ぐる帷子の間に
隠れて失せしと云是皆虚記なり平泉宗記
秀衡の子泉冠者義衡賊亡の時寶蔵と直と縫ぐる
帷子其外色々の宝物をもてとそうの如れば昔より
如ようの帷子なりし思ふ古の記是無なり金次郎
大山より帰陣の後金月に於て珍重なる猿猴の自